

地域医療患者支援センター・がん相談支援センターだより



秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 発行

第57号

令和3年度 入退院支援に関わる算定状況

センターは、入退院支援、地域医療連携、がん・遺伝相談、相談支援の4つの柱を軸に、院内外の各部門及び関係機関との連携を強化し、患者サービスの向上を図ることを目的として活動しています。

令和3年度は、「入退院支援に関わる診療報酬の上位加算を取得・運用し、**Happy!** 病院経営に貢献すること」を目標に掲げ、多職種と協働しながら戦略的に取り組みました。

【得られた成果】

- 6月に「入院時支援加算1(230点)」「入退院支援加算1(600点)」の上位加算を取得し、運用することができました。
- 入院前支援は22診療科に拡大、その対応件数は、約250件/月（入院予定患者の2割強に介入）。
- 「入院時支援加算1(230点)」の算定件数は、約200件/月で推移
- 「入退院支援加算1(600点)」の算定件数は、750件/月を超え、退院患者の7割強に算定

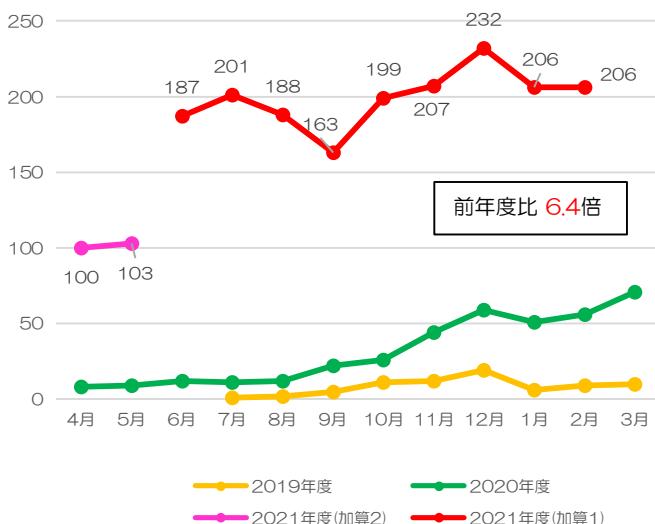


「入退院支援の見える化」「業務の効率化」「算定件数増加」「経営への貢献」等の成果が得られました。

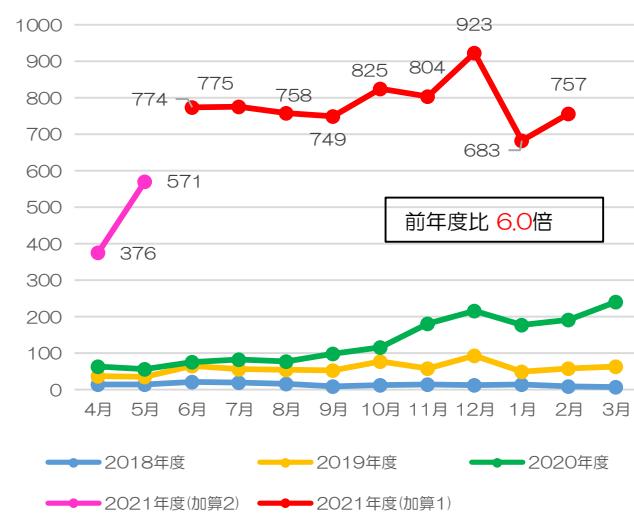
入院予定患者さんは、入院前支援を受けることで、不安を軽減し入院生活や治療経過のイメージを持って入院することができ、入院後は、各病棟において退院支援や退院指導を受けて、順調に自宅退院できていることが示されています。入院前支援と退院支援の連携が上手く図られていることが伺われます。

令和4年度は、「入院前支援の更なる整備とフローの確立」「PFMの拡大と標準化」「後方支援の部署への教育的関わりの充実」が課題と考えています。引き続き、ご指導とご協力の程、どうぞよろしくお願ひいたします。

入院時支援加算算定件数



入退院支援加算算定件数



お知らせ

看護技術2022年4月増刊号のテーマは、

「病棟看護師に求められる入退院支援と退院調整のポイント」です。



入退院調整看護師や地域の連携先が病棟看護師に本当に求めている入退院支援や退院調整についての情報や、入院中に実施してもらいたいと考えている退院支援などについて紹介されています。当センターの事例も掲載されています。ぜひ、手に取ってご覧ください。

一緒に学んでいきましょう。



退職・異動されるスタッフより

佐々木和子看護師

入退院支援部門で約3年間勤務させて頂きましたが、この度、退職にする事になりました。当初、入院前支援は開始間もないため、対象診療科が少なく成果も見え難い状況でしたが、病棟・外来・スタッフのご協力により次第に診療科を拡大、多くの患者さんに介入でき、診療報酬でも成果が出るようになった事は、日々の励みになりました。これからも、より入院前支援が発展する事をお祈り致します。



長い間お世話になりました。

長谷川由佳看護師

入退院支援部門で入院前支援を行ない、2年間、入院前の患者さんに関わらせて頂きました。入院前の患者さんの病状、背景、治療や入院生活の不安等について思いを伺い、早期からの退院支援を視野に入れて対応を心がけとても学びの多いものとなりました。次年度より病棟勤務となります、入退院支援部門で経験した学びや患者さんの思いを、今度は病棟で活かすことができるよう頑張っていきたいと思います。お世話になりました。ありがとうございました。

ありがとう!

ありがとう
ございました

日高真澄看護師

平成28年に患者支援センターに配属になってから今まで、たくさんの出会いがあり、そしてかけがえのない経験をした6年間でした。担当していた1-7病棟は、院内で先駆けてPFMが導入され、入退院数が多い中でも協働して取り組むことができました。新しい配属先ではこれまでの経験を活かして、入院前から切れ目ない生活支援を行い、患者さんの不安軽減に努めながら、病診連携の強化を図ることができると考えております。ご指導よろしくお願ひいたします。

今まで
ありがとう
ございました！

あつかれ
さまざまでした！

小川江美MSW

ご縁があり、平成15年5月より勤務しておりましたが、この3月で退職することになりました。初代の医療ソーシャルワーカーということで、求められるその役割を果たすべく、退院支援やがん相談、HIV関連支援、児童虐待対策等の基盤作りに向けエネルギーを注いだ19年間でした。至らない点もあったかと思いますが、患者さんはじめ、ご家族、当センタースタッフ、院内他部署、院外関係機関の皆様と関わる中で多くを学ばせていただきました。

これまで本当にありがとうございました。

今後の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。



伊藤結貴さん

多岐にわたるセンターの役割に圧倒されつつ、「日々学習！」の1年でした。退院調整看護師としてまだまだ未熟で課題は沢山ですが、新たな視点を持ち患者さんやご家族と関わることができたこと、院内・外の多くの方たちと繋がりをもつことができたことは、貴重な財産になりました。新しい部署ではより専門性を発揮し、患者さんやご家族、関わる医療スタッフの皆さんのがになれるよう努めたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



元気でね

THANK
YOU

秋山みどり看護師長

7年間お世話になりました。心から感謝申し上げます。センターは、年々役割発揮が求められ、業務は多岐かつ拡大の一途を辿りました。入退院支援に関わる診療報酬の用語は、退院調整加算→退院支援加算→入退院支援加算と変化し、センターの場所は3F→1F→1F/3Fと移転しました。看護師は6名→18名に増え、がん看護専門看護師、遺伝看護専門看護師、難病診療コーディネータ等、人材がとても充実しました。センターは「地域の窓口」であり「病院の顔」、「つなぐ部門」であり「病院の要」、「患者さんやご家族、地域の皆様により近い立場で寄り添い支援する部署」であり「患者サービスに貢献する部署」であることを実感する日々でした。今後は、ここで得た多くの学びを新しい部署で活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

